

時代が変わる。川西を変える。

さあ、かわにし **新**時代へ。

令和3年度 スマートフォン講習会 アンケート集計・報告

川西市福祉部介護保険課

令和4年8月

◆令和3年度スマートフォン講習会について

《概要》

65歳以上の市内在住の方を対象に高齢者がスマートフォンを活用することで、市のホームページの閲覧や高齢者福祉サービスの情報を入手することを促進し、安心して暮らせる地域づくりをめざすことを目的として、令和3年度は、市内の公民館で計21回開催、中央図書館と共催で1回開催した。

また、コロナ禍で自宅にこもりがちな65歳以上の方々が、家族や友人とSNSを利用してつながることで、フレイルにつながる孤立やデジタルデバイドを防ぐため、ソフトバンク株式会社の協力の下、迅速に開始し、コロナ禍で自宅にこもりがちな高齢者の孤立を防ぐためのスマートフォン利用を促進した。

《講習会の内容》

午前の部は、スマートフォンを持っていない方向け講習（午前10時30分から） 午後は、持っているが使いこなせていない方向け（午後2時から）の講習とし、それぞれ2時間の講習をおこなった。川西市と業務連携を締結しているソフトバンク株式会社の認定講師（スマホアドバイザー）に講師を依頼し、ソフトバンク株式会社の宣伝であると誤解を受けないように、講習前に介護保険課よりご説明し、講習内でも認定講師がどの携帯会社の携帯電話をお持ちでもご相談を受けることができることを説明した。

本市のホームページの見方、地図・カメラの使い方、ご家族やご友人との動画通話、二次元コードの読み取り等の初歩的な内容を講習した。また、庁内の他課と連携し、新型コロナウイルスのワクチン接種のWeb予約方法、マイナンバーカード、市内店舗利用促進のための地域振興券利用の啓発をおこなった。

◆令和3年度スマートフォン講習会集計表

1. 会館別申し込み者数・受講者数（※印は、定員超過のため抽選）

開催日	場所	講座	受講者数	申込者数
6月25日	川西南公民館	午前	12	14
		午後	19	16
6月28日	加茂ふれあい会館	午前	18	19
		午後	19	※24
7月29日	緑台公民館	午前	21	16
		午後	18	※48
7月30日	多田公民館	午前	8	9
		午後	17	16
8月4日	川西公民館	午前	13	17
		午後	18	19
10月5日	北陵公民館	午前	11	11
		午後	15	15
10月7日	中央図書館	午前	14	15
		午後	19	※23
10月29日	緑台公民館	午前	20	※34
		午後	19	※57
11月10日	清和台公民館	午前	7	10
		午後	11	15
11月29日	明峰公民館	午前	8	8
		午後	11	11
小 計			279	397

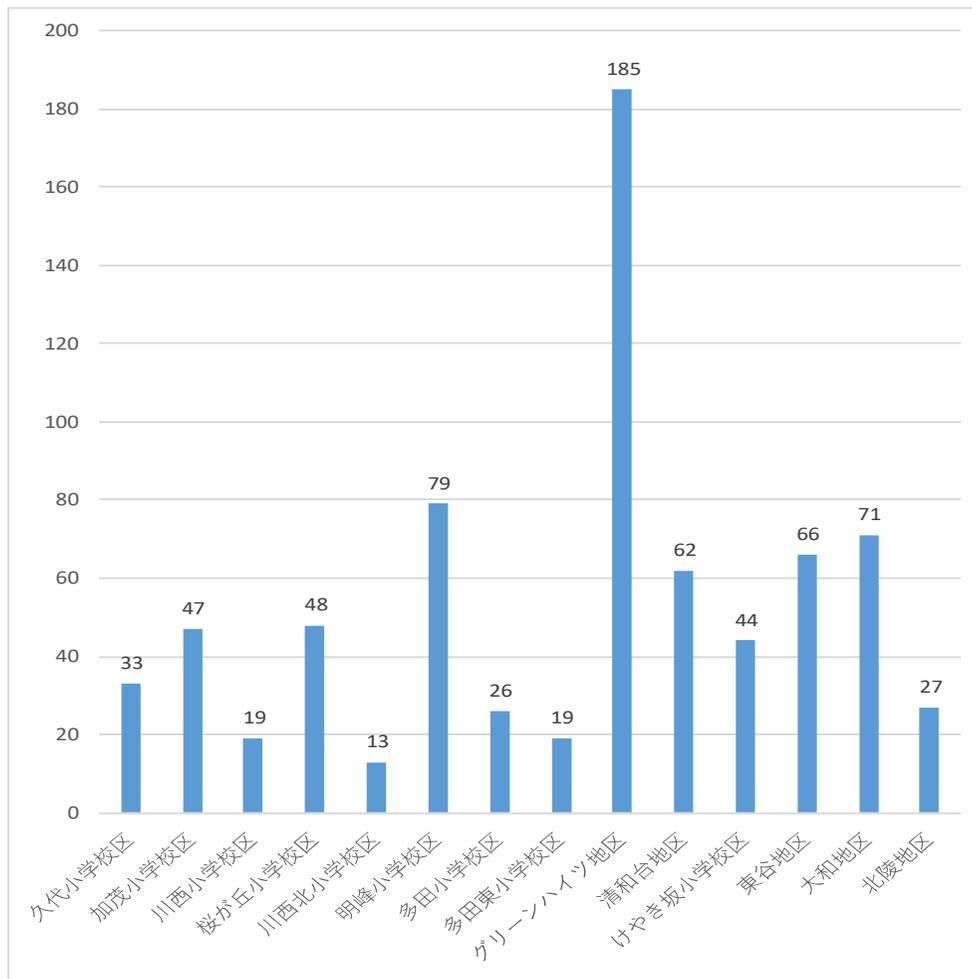
開催日	場所	講座	受講者数	申込者数
12月1日	加茂ふれあい会館	午前	5	9
		午後	13	14
12月10日	川西南公民館	午前	6	6
		午後	10	12
12月20日	けやき坂公民館	午前	17	17
		午後	11	11
1月11日	東谷公民館	午前	8	10
1月25日		午後	19	※21
1月19日	川西公民館	午前	12	14
		午後	18	※34
1月31日	明峰公民館	午前	7	10
		午後	18	※31
2月8日	清和台公民館	午前	13	14
		午後	17	17
2月15日	けやき坂公民館	午前	2	4
		午後	16	18
2月17日	多田公民館	午前	11	13
		午後	18	※21
3月15日	北陵公民館	午前	8	9
		午後	20	20
3月29日	東谷公民館	午前	18	18
		午後	20	※51
小 計			287	374
合 計			585	771

◆地区別受講申込者数

(※重複受講者は含まず)

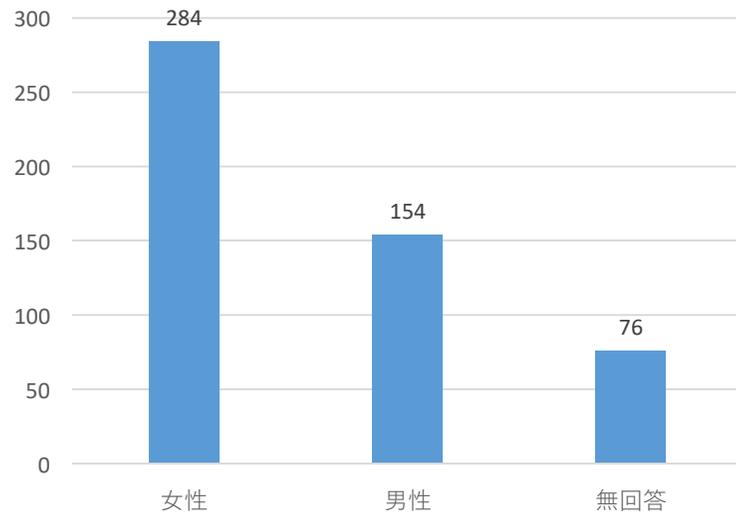
小学校区	申し込み者数		合計
	上半期	下半期	
久代小学校区	24	9	33
加茂小学校区	26	21	47
川西小学校区	12	7	19
桜が丘小学校区	33	15	48
川西北小学校区	6	7	13
明峰小学校区	30	49	79
多田小学校区	8	18	26
多田東小学校区	5	14	19
グリーンハイツ地区	77	108	185
清和台地区	29	33	62
けやき坂小学校区	26	18	44
東谷地区	14	52	66
大和地区	36	35	71
北陵地区	13	14	27
合計	339	402	741

小学校区別申し込み者数



◆男女及び年代別比率（アンケート結果から）

性別

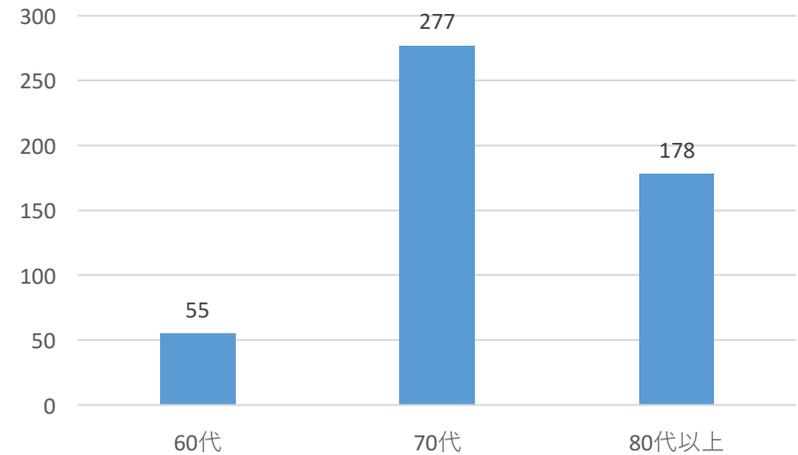


性別	人数
女性	284
男性	154
無回答	76

《男女比率について》

男性の出席割合が、他の研修等より多いと思われる。ご夫婦で出席されている場合も毎回、1, 2組あったが単独で来られる男性の方が多くみられた。

年齢



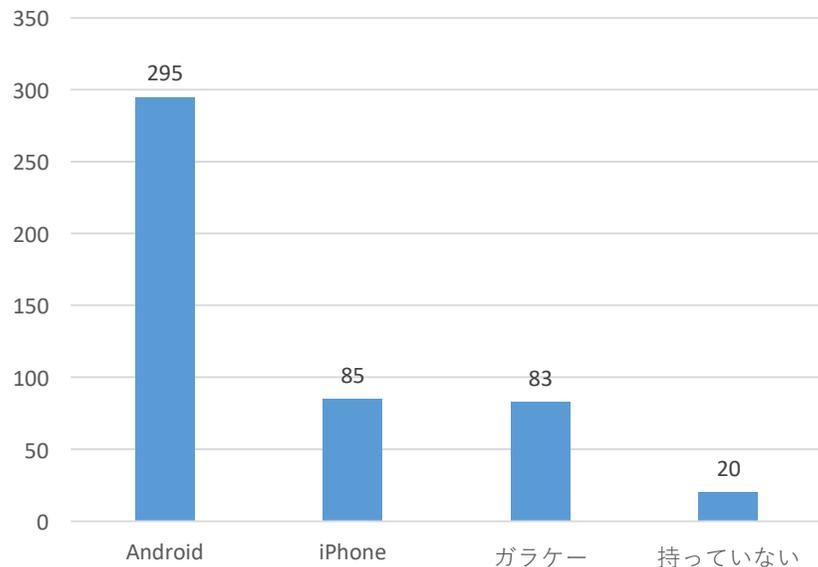
年齢	人数
60代	55
70代	277
80代以上	178

《年代比率について》

年代の比率は、70代80代の方が多く受講された。60代のほとんどの方は、「持っているが使いこなせていない」講習に参加された。

◆携帯電話種別及び保持年数（アンケート結果から）

携帯電話の種類

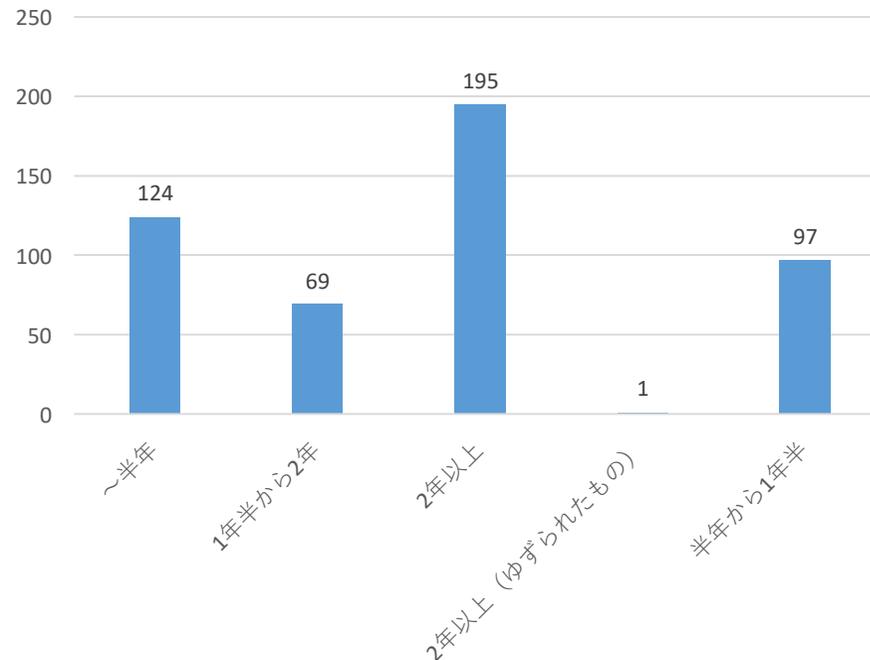


携帯の種類	
Android	295
iPhone	85
ガラケー	83
持っていない	20

≪携帯電話（OS）種別について≫

講習では、iPhoneをデモ機として利用したが、実際には、Androidをお持ちの方が多。しかし、Androidの場合は、様々な会社の多様な機種があり、デモ機としては利用しづらい。

携帯電話の保持年数

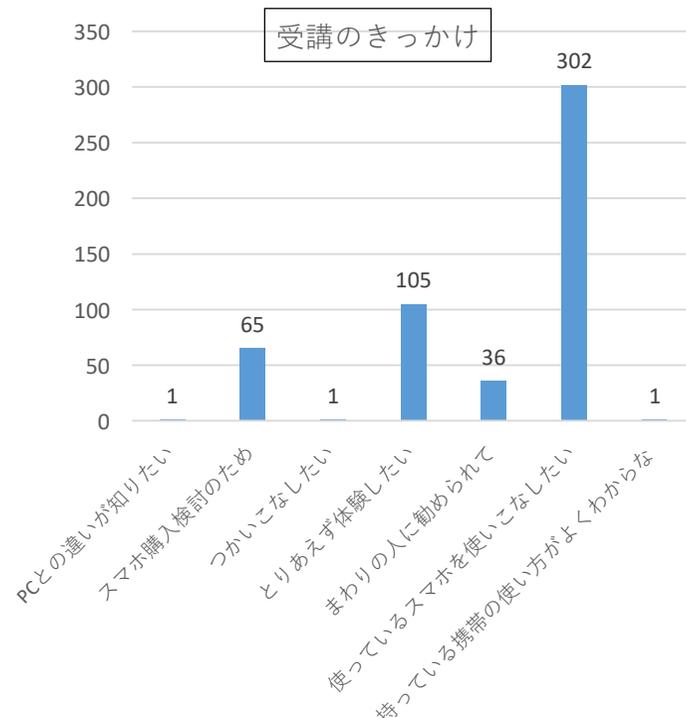
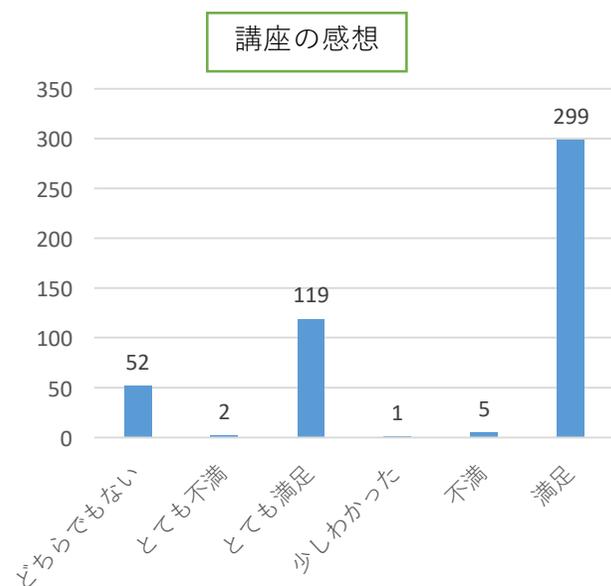


今使っている携帯の年数	
～半年	124
1年半から2年	69
2年以上	195
2年以上（ゆずられたもの）	1
半年から1年半	97

≪保持年数について≫

携帯の保持年数には、ばらつきがあったが、今後は、携帯電話を保持する方が増加し保持年数も伸びていく。

◆講習会の感想



本日の講座はいかがでしたか	
どちらでもない	52
とても不満	2
とても満足	119
少しわかった	1
不満	5
満足	299

受講のきっかけ	
PCとの違いを知りたい	1
スマホ購入検討のため	65
つかいこなしたい	1
とりあえず体験したい	105
まわりの人に勧められて	36
使っているスマホを使いこなしたい	302
主人の持っている携帯の使い方がよくわからない	1

講座の内容や体験量はいかがでしたか	
基礎内容でよかった	219
情報が多すぎた	9
体験量よかった	72
体験量少し物足りなかった	1
内容・体験量共によかった	92
物足りなかった	59

講師の説明はわかりやすかったですか	
すこしわかりにくい	9
どちらでもない	28
とてもわかりにくい	3
とてもわかりやすい	158
わかりやすい	284

スマートフォンが欲しくなりましたか	
いつか欲しい	88
すぐに欲しい	24
どちらでもない	21
既に持っている	317
興味がわかなかった	3
主人のを使っている	1

《感想の傾向について》

概ね満足とのお声をいただいたが、「不満」「とても不満」の方のご意見は7件あり、その理由として「簡単すぎた」「初歩的過ぎた」が、6件、「難しい」が1件であった。

◆令和3年度スマートフォン講習会の総評

《啓発について》

受講申込者数は、合計771名で、定員超過により抽選する開催会場もあったほど多くの申込みをいただいた。コミュニティ協議会や自治会にご協力いただき、地域の広報誌への掲載や回覧、地域内のポスター掲示等の啓発ができたことが大きな要因のひとつである。また、市内のスーパーなど民間事業者や駅・病院・郵便局にもポスターの掲示を依頼し、ご協力いただいた。

《受講者について》

公民館別、地区別の受講申し込み者数、受講者数（※別添表）では、どの会場も午後のスマートフォンを持っておられる方向け講習の申し込みが多く、本市の高齢者もスマートフォンを持つ方が増えていることがわかる。

また、各携帯電話会社において「ガラケー」と呼ばれる携帯電話の取り扱いが今後終了していくため、スマートフォンを持っておられない方向けの講習では、スマートフォンに買い替える前に受講したと言われる方が多く、初めてスマートフォンを触るきっかけとなっていた。

操作方法を家族に質問しようとしても聞きづらいとの声や、どこで聞けばよいのか、わからないとの声も多くあり、気軽に聞くことができる場の必要性を感じた。

《講習内容について》

音声検索や写真撮影や写真保存の利便性に驚きの声があがり、地図アプリで海外まで閲覧できることにも歓声があがった。音声でライトを点けることで災害時に利用することができることや、小さな文字を撮影し、拡大して文字を読む等、高齢者の生活に有効な音声入力での操作方法等を講習した。

また文字の入力や画面タッチ等の指先を使う操作方法に対しては、操作が難しいと感じる受講者が多くいたため、どのような操作であれば利用しやすいのかを適時講師と打ち合わせを行ない、講習内容の改善に努めた。



◆今後に向けて 1

《講習について》

今年度実施した講習以外に、スマートフォンの機種に応じた講習も必要である。所持しているスマートフォンに対応した講習については、既に第2層生活支援コーディネーターの支援のもと、地区福祉委員会で実施されている「住民同士の学び合いの場」が有効であると考えられるため、地域住民向けの「講師になるための講習」などの開催が必要と考えられる。

他課や公民館等でもスマートフォン講習会やSNSについての講習が検討されており、個々が自分に合った講習を気軽に受けることができるように多様な研修や個別相談が今後、増えていかなければならない。

また、1度だけ講習を受講するのではなく、その後も気軽に繰り返し練習できる、もしくは気軽に相談できるような場が必要であることから、地域住民や民間業者（市内の携帯ショップなど）、NPOなどと連携していく必要がある。

《令和4年度のスマートフォン講習について》

今後は、スマートフォン等を用いて情報を入手する場面が増えてくるため、利用できないことによる情報格差が生じないように、引き続きスマートフォン講習会を開催し、スマートフォン等を活用して必要な情報を入手することができるよう支援していく。

なお、令和4年度については、昨年度の講習内容に加えて、福祉と医療の総合情報サイト〈かわにしサポートナビ〉の利用方法を追加することにより、かわナビを活用した地域活動の人材確保や社会参加による介護予防やフレイル予防についても啓発していく。

◆今後に向けて 2

- ・初めて触るきっかけづくり
- ・受講者が同じスマートフォン(デモ機)で同じ操作をおこない操作に慣れる
- ・便利な機能を知ることやSNSを利用することのきっかけづくり

令和3年度
6月開始

今後に向けて全市的に必要な取組み (第1層生活支援コーディネーター)

- ・学生等多世代を巻き込んだ講習が行えるネットワークづくり
- ・地域住民同士が教え合える担い手育成研修等の検討
- ・自身のスマートフォンを使った個別の相談の講習内容検討
- ・自身に合った講習を選択できる様々な講習(民間・NPO)
- ・携帯会社等民間やNPOとの協働

住民によるよりきめ細やかな支援の場 (第2層生活支援コーディネーター)

- ・小地域で学べる講習会
- ・地域住民による気軽に聞ける学び合いの場